

香芝市踏切道における視覚障がい者誘導用ブロック整備方針会議の概要

1. 会議の日時

令和4年8月30日（火）14時～15時30分

2. 会議の目的

誰もが安全・安心、快適に移動できる ひとにやさしい都市（まち）づくりの実現のため、踏切道内及び周辺における視覚障がい者誘導用ブロック・エスコートゾーンの整備方針を検討する。

3. 会議出席者

当事者団体	公共団体等	鉄道事業者
香芝市身体障害者福祉協会、光友会	近畿運輸局バリアフリー推進課・奈良運輸支局、近畿地方整備局奈良国道事務所、奈良県警察本部、奈良県、香芝市社会福祉協議会、香芝市	西日本旅客鉄道(株)、近畿日本鉄道(株)

4. 整備の方向性（案）

- ①「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」に基づき整備
- ②他市町村・他府県の先進事例を参照し整備
- ③踏切道内エスコートゾーンの整備方法の検討【当事者意見の聴取】

5. 意見・会議の様子

- ・模擬体験を通して、足の裏や白杖の感覚、白杖を当てたときの音などから、エスコートゾーンと点状・線状ブロックとの構造の違いが識別できた。（白杖ユーザー・盲導犬ユーザー）
- ・エスコートゾーンを知らない視覚障がい者もいるため、広報に力を入れてもらいたい。整備後の状況を光友会の会員とともに体感しに行きたい。（白杖ユーザー）
- ・盲導犬の歩くスペースも必要であるため、踏切道端部とエスコートゾーンとの間には一定の間隔をあけてもらいたい。（盲導犬ユーザー）
- ・遮断機と点状ブロックの間隔の説明があったが、遮断機の音が聞こえたら離れた場所で待機するため、遮断機と点状ブロックとの間隔にはこだわる必要はないと思う。（盲導犬ユーザー）
- ・遮断機と点状ブロックの間隔について、大阪市では30cmの基準があるとのことであるが、鉄道の管理区分の境界は50cmと定められていることから、可能であれば間隔は50cmとしてもらいたい。（鉄道事業者）
- ・踏切道内にエスコートゾーンが整備されると凹凸が多少生じるが、視覚障がい者にとって必要性が格段に高いので、ごくわずかな移動のしにくさは問題だとは思わない。（車いすユーザー）

《後日追加意見》

- ・社会福祉法人日本ライトハウスによると、「生活訓練では遮断機のギリギリまで近づかずに手前で待つよう説明し、また、踏切の中か外かが分からなくなったときは、緊急避難として遮断機の真下でしゃがんで電車の通過を待つように説明している」とのことである。（白杖ユーザー）

6. 会議の結論

横断歩道エスコートゾーンとの混同の恐れもあるため、国のガイドライン等の内容に沿って、継続的に検討する。

